

リニア山梨県駅付近を『甲府市防災情報WEB』調べると

- ・地震の揺れやすさ → 「震度6強」
- ・液状化の危険度 → 「大」
- ・釜無川浸水想定 → 「2m～5m」
- ・笛吹川浸水想定 → 「2m～5m」

- ・ 甲府盆地南部は洪水地帯で今でも旧家の納屋には船があります。山城小学校には地域文化として船が寄贈されています。
- ・ 甲府盆地南部のリニアの通過ルートとは**曾根丘陵活断層**と重なり、国土地理院の図面をみてもリニアの山梨県駅は活断層から1.5キロの近い位置にあります。
- ・ **東海地震**は30年以内に88%の確率で起こるとされています。1854年の安政の東海地震は甲府盆地に大きな被害を与えました。このときの地域の被災状況は、これから周期的に想定されている次の東海地震の被害予想として重視されています。

リニア山梨県駅が予定されている大津地域ですが、古文書によると安政の東海地震で「大津村」（現在の大津・リニア山梨県駅予定地）の被災状況は

**戸数50の内 倒壊戸数47＝ 倒壊率94%**

甲府市防災会議『甲府盆地における地震被害環境』田中収教授

ほぼ壊滅の状態でした。

ここに「展望施設も造り甲府盆地の眺望を提供」というのです。地盤が悪い地帯に建物、特に高い建物は危険であり、また建設費用が必ず大きくなっていきます。

- このリスクが強い地帯を、リニアは運転士もいない遠隔操作でビルなら6階の高さにもなる20メートルもの高架橋の上を時速500キロで走り抜けます。絶対安全と言い切れるのでしょうか？

- またこの地域は**継続して地盤沈下**もしているのです。

甲府盆地の地下水は豊富で水質も良好でしかも無料です。しかし、地下水の過度な利用は地盤沈下を招きます。

ここに、大規模な駅周辺施設が作られること自体にリスクがありますが、つくられた周辺施設が地下水を利用すると、地盤沈下の加速度をまし、ここからも危険な状態となります。